

横須賀・三浦 放射線技師会報

— 主な記事 —

- | | | |
|-----------|-----|------|
| ○ 巻頭言 | | 中井武美 |
| ○ 理事会報告 | | 二田 勇 |
| ○ 地区委員報告 | | 新倉雅人 |
| ○ 玉兔賜福 | 〈黄〉 | 千葉 一 |
| ○ 学術報告 | | 濱田順爾 |
| ○ インターネット | | 渡部一博 |
| ○ 編集後記 | | 高崎正勝 |



久野市長挨拶 (創立50周年記念行事にて)



No. 72

Vol-22-No. 3 23. Mar. '99

発行・横須賀三浦放射線技師会広報

21世紀は老人力がいいかも？

副会長 中井 武美

あわただしい世紀末である。政治、経済、社会世相は全くカオスの世界としかいいようがない。そんな世の中であって、最近「老人力」という言葉が聞かれるようになってきた。[老人力]とは物忘れ、繰り返言、ため息等従来、ぼけ、ヨイヨイ、毫碌として忌避されてきた現象の先に潜むとされる未知の力。と赤瀬川原平氏は規定しています。老化現象をマイナスイメージからプラスイメージに積極的にとらえ直し、若いときには気付かなかった能力を見つめなおそうそうとしているのだと思います。私もここ数年この老人力がメキメキつきはじめているのに驚いています。社会の多様化、価値観の変化について行けないことも多々ありますが、時代の波にある程度乗って行かなければと自らの体に鞭を入れています。

まもなくやってくる21世紀とはどんな世界でしょうか。2006年に日本の人口はピークをむかえ12700万人になるそうです。その後人口は急激に減少に転じ、60～70年後6000万人にまで半減するという予測を聞きました。日本列島の人口が半減すれば、今よりも少し暮らしやすくいいかなと考えたが、社会資本の整った場所には人口の減少を補うように、周辺の国から多数の人々がなだれ込んでくるそうで、欧米の国々で見られるような多くの人種が入り乱れて暮らす社会構造になるようです。我々が働く医療職場は、まずこの大きな人口構造の変化をまともに受けるでしょう。

私たちの横須賀三浦放射線技師会は、5月に技師会創立50周年記念式典を無事終了し、新たな歩みを始めたばかりです。救急センターの事業も横山先生から松井先生へバトンタッチされ、新たな協力会員も増え、順調な滑り出しをしています。会の事業もそれぞれ役員の方々が努力をされ活動が活発に行われています。50周年事業をやり遂げた会員たちのエネルギーが、そのまま技師会活動のマグマとして熱をため活動を支えています。

三役は「老人力」にさらに磨きをかけ、若い会員の方々には人口の減少を食い止めるために努力していただき、会の活動は、多くの会員諸先生方のマグマで後押しされながら2000年に向けて頑張っていこうと思います。

平成10年度

横須賀三浦放射線技師会総会開催

4月3日(土)午後3時より

横須賀市文化会館会議室において、平成10年度の定期総会を開催致します。50周年記念行事が終了し早1年が過ぎようとしています。奮ってご参加下さいますようご案内申し上げます。なお、皆様には庶務よりご案内の通知が届いていると思われまます。出欠を忘れずに提出して下さい。

| | | 式次第 | |
|----|------------------|-----|-------------|
| | | 司会 | |
| 一、 | 閉会の言葉 | | 二田理事 |
| 一、 | 議長団解任 | | |
| 一、 | その他 | | |
| 一、 | 平成11年度救急センター予算案 | | 大藤理事 |
| 一、 | 平成11年度一般会計予算案 | | 坂詰理事 |
| 一、 | 平成11年度事業計画案 | | 新倉会長 |
| 一、 | 地区委員報告 | | 新倉理事 |
| 一、 | 平成10年度会計監査報告 | | 鈴木理事 |
| 一、 | 平成10年度救急センター会計報告 | | 大藤理事 |
| 一、 | 平成10年度一般会計報告 | | 坂詰理事 |
| 一、 | 〔Y M B I T〕 | | 服部理事 |
| | 〔救急医療〕 | | 松井理事 |
| | 〔福利厚生〕 | | 杉本理事 |
| | 〔広報〕 | | 高崎理事 |
| | 〔学術〕 | | 高橋理事 |
| | 〔庶務〕 | | 石島理事 |
| 一、 | 議長団選出 | | |
| 一、 | 議事 | | |
| 一、 | ①平成10年度経過報告 | | |
| 一、 | 開会の言葉 | | 千葉副会長 |
| 一、 | 挨拶 | | 新倉会長 |
| 一、 | 祝辞 | | 加藤泉県会議員候補 |
| | | | 藤原尉夫市保健福祉部長 |

※ 総会のみのお出席者は、年会費のみご用意下さい。
懇親会を希望される方は、別に2,000円が必要です。

※ 懇親会には、賛助会員の方々も出席いたします。
ぜひ交流を深めて頂きたいと思ひます。

執行部・理事会

第3、4回理事会報告

日 時、10月16日(金) 18:30～
場 所、横須賀共済病院会議室
司 会、中井副会長
出席者、14名

1. 庶務経過報告

- 7月15日 第2回理事会開催
22日 救急センター業務連絡会案内を担当者に送付。
- 8月 6日 救急医療センター技師派遣について、6月15日付、横三技・98-9号の依頼文が北共病第87号により濱田順爾技師が受理され、期間は平成10年10月～平成11年3月までの回答文が会長宛にとどいた。
- 9月 1日 横須賀市役所保健福祉部保健福祉総務課、主幹岩沢様宛にFAXにて救急センター派遣技師名簿を送信。
16日 広報誌NO71号会員、賛助会員に発送。
学術より12月5日(土)研究会開催予定の案内を送付。
- 10月 3日 横浜市南部地区放射線技師会10周年記念式典に、千葉副会長、二田、羽布津両理事、の3名が出席した。
- 10月16日 第3回理事会開催。
10月19日 救急センター業務連絡会案内送付。
20日 救急センター補充従事者7名に誓約書等の書類を返信封筒を入れて送付(北部共済濱田氏、南共済高崎氏、小笠原氏、玉村氏、村上氏、平林氏、宮原氏、以上7名)。
- 11月11日 研究会、忘年会の案内を会員、賛助会員に送付。
19日 救急センター業務連絡会横須賀共済病院健康管理センター会議室にて開催21名出席、第2会議室から健康管理センター会議室に変更。
- 12月 5日 学術主催勉強会を横須賀共済病院講堂にて開催 演題6題終了後忘年会開催 65名参加
12月 8日 理事会・新年会案内を相談役、理事、賛助会員に往復はがきで送付。
14日 理事会、新年会案内の日時を間違い再度訂正し送付した
- 12月18日 1月24日合同勉強会案内を会員に送付。

- 14日 理事会・新年会案内の日時を間違い再度訂正し送付。
 - 18日 1月24日南部合同勉強会案内を会員に送付（南部地区当番）。
 - 21日 県技師会宛に生涯教育カウントシステム認定申請書を送付
- 平成11年
- 1月 5日 技師会名簿を会員、賛助会員に送付。
 - 13日 神奈川歯科大学放射線学教室鹿島勇教授より第40回日本歯科放射線学会総会学術大会に横須賀・三浦放射線技師会の後援名義使用申請があり会長名義で22日付けで了承の返事を送付。
 - 23日 12月21日付けで県技師会に生涯カウントシステム認定を申請し承認され、認定期間は平成10年7月1日～平成11年3月31日までで、以降はまた申請する。
 - 23日 南部合同勉強会に千葉副会長、庶務二田氏、羽布津氏、学術須藤氏、濱田氏が出席。
 - 27日 救急業務連絡会案内送付
 - 30日 防衛庁横須賀クラブにて第4回理事会、新年会を開催。
 - 2月 4日 福利厚生主催2月12日ボーリング大会案内会員賛助会員に送付。
 - 12日 県技師会宛に地区名簿を郵送。

2. 会計報告

会長より、今年度の名簿作成費を使用しないで済んだため、どのように処理するか話し合い今回は、寄付金にまわすこととし、次年度より積立金扱いとすることになった。

松井理事より、救急センター事業収入（1）は何か説明を求められ、コックダック社が保守代金処理ができないため寄付の形をとっている部分。坂詰理事より、積立金部門救急センター事業収入（2）の額は、このままで良いかの質問。救急センター従事者会議にかけ、その後理事会にて決めるとした。

50周年記念事業より

須藤理事より 50周年記念事業収支の報告があり約66万円の残金があり、どう処理するかの質問があり、第4回理事会で使い道について考えることになった。

第4回理事会で以下の使途が可決され総会で決議することとした。

- 1、次回の積立金にまわす。
- 2、救急センターにCPUを購入する。
- 3、福祉団体に寄付する。
- 4、会の旗を作る。

以上4項目について総会にかけ決定したい。

3. 各部報告

【学 術】

12月5日、第83回研究会を横須賀共済病院講堂にて開催した。参加65名。その後3部合同の忘年会を行った。本年1月23日南部地区との合同勉強会が、横浜南共済病院で開催した。参加69名。

【広 報】

9月7日第71号、50周年記念特集号を発行した。また総会までに72号を発刊する。

【福利厚生】

恒例となっている納涼会が、日程の都合上開催できなかったので、忘年会を考えている。県のボーリング大会に合わせ、予選会を兼ねたボーリング大会を開催する。

【救急センター】

横須賀北部共済及び横浜南共済病院より、センター協力者が出て頂けることになり、大変助かっている。おかげで年末年始の勤務割り振りもスムーズにできます。書類の整理の簡素化のためコンピューターを欲しい旨、市に交渉したが無理であるので技師会の方で検討してほしい。

【Y M B I T】

特に活動はしていないが、来年度はホームページを作ってみたいと思っている。

4. その他

生涯教育カウントシステム地区認定を受けた。何時間で何ポイントにするか県技師会に確認する

斎藤正県議会議員が勇退されるので、技師会より記念品を予備費より支出し総会の席にて贈呈したい。

地区委員会報告

平成10年9月10日(木)

地区委員 新倉雅人

議 題：理事会報告
審議事項
その他

理事会報告

1. ISRRTについて

9月幕張にて開催されるISRRT国際大会は参加人数2500名、海外よりの参加200名程度に成る予定です。神奈川県においては参加要請135名に対し8月現在142名の登録があった。

2. 県医療専門職連合会について

10月3日桜木町の横浜市健康福祉総合センター4Fホールにおいてチャリティ、講演会が開催。参加費は2000円。

3. 学術振興フォーラムについて

10月に予定されていた学術振興フォーラムは、都合により来年の3月まで延期になった。開催場所は湯河原を予定。

4. 旧制度生涯教育カウント認定について

新生涯教育制度が実施され、旧制度における教育カウント認定申請を締め切り、申請人数81名の内、71名に対し申請が認定された。認定者名は会誌に掲載する予定です。

5. 生涯教育記録手帳の発行について

新生涯教育制度が実施され、生涯教育記録手帳も新たに発行された。新入会員には入会時に配布される。現会員の方々には1部300円で配布する。なお旧手帳もそのまま使えるので無理に購入する必要はない。

6. 新制度による生涯教育認定要請について

新制度における生涯教育ポイントは神奈川県技師会が主催もしくは承認した講習会及び研究会が対象となる。各地区における講習会及び研究会をポイント対象とするために活動内容及び活動実績等を神奈川県技師会に対

して申請し承認を得る必要がある。各地区技師会で御検討お願いする。詳細は学術、安藤理事まで

7. 平成11年度生涯教育予算要望について

神奈川県技師会は神奈川県衛生部に対して平成11年度生涯教育予算の要望書を提出した。予算要望の対象となる平成11年度の生涯教育推進事業は以下のとおり。

- ◆診療放射線技術講習会（増額）
- 医療放射線関連機器保守点検の最適化（新規）
- ▲放射線管理実務研修（新規）
- 診療放射線技師専門技術者実務研修（新規）
- ★一人就職者の実務研修（新規）

地区委員会報告

平成11年1月30日

- 議 題：1－報告事項
2－審議事項
3－その他

報告事項

●総務

1. 県技師会に所属する会員名簿の最新版を作成中、部数1700冊 200ページ程度、出来次第、会員に配布する予定。
2. 入会促進パンフレットが作成され、現在印刷中。県技師会の活動内容などを紹介した内容で、未入会の方々がいれば活用して欲しい。
3. 平成11年度1月14日（木）にホテル横浜ガーデンに於いて、新春賀詞交歓会を開催予定。
4. 会員数 1473名（平成10年10月22日現在）
5. 県技師会総会を平成11年3月26日（金）18：30より横浜市技

能文化会館に於いて開催予定。

◆財務

1. 上半期の中間監査（10月19日）が終了し、現時点で会費納入率約70%との報告があった。

■学術

1. 神奈川学術振興フォーラムを平成11年2月末日～3月にかけて、湯河原で開催予定。今回のテーマは「医療を取り巻く環境」、患者に優しい医療機器とはで特別講演、パネルディスカッション等の内容になっている。
2. 恒例となっている胸部X線画像評価研修会を癌センター以外での開催を企画している。今回は湘南地区茅ヶ崎徳州会病院に於いて開催予定。日時、その他の事項は会誌でお知らせします。
3. 平成10年7月より施行されている新生涯教育システムに於いて、各地区の学術活動の申請を受付けている。申請され承認された学術活動に対しては、生涯教育ポイントの対象になるので、各地区における未申請の活動に対して早急に申請をお願いする。

審議事項

1. 入会促進について、未入会の会員に対して地区単位での見直しをお願いする。
平成11年3月までに100名を達成したい。（現時点70名）
2. 学術フォーラムの実行委員を地区単位で選出出来ないか？

その他

1. 第一回神奈川乳房画像研究会が平成10年12月12日（土）神奈川労働プラザに於いて開催される。
2. 県技師会に於いて以前に刊行された各種のテキスト等の在庫がかなり残っており、在庫刊行書物の割引販売を検討中。

玉兎賜福 (ぎょくとしふく)

〈黄〉 こと・千葉

北京の友人から届いた賀状に、兎の絵に添えて「玉兎賜福(ぎょくとしふく)」の4文字があった。

中国には、月には兎が住み、太陽には鳥がいるという言い伝えがある。月の兎が福をもたらすという意味だろう。

「玉兎」はまた、月そのものを表す。「兎走鳥飛(とそううひ)」は、「月日の立つのは本当に早い」という意味で使われる。

不況やら異常気象やら、災い多かった寅年が去り、卯年を迎えた。卯は兎。すばしこく、愛らしい兎なのに、中国の故事に出てくる兎はどこか哀れである。

「待ちぼうけ 待ちぼうけ」で始まる北原白秋の歌は、戦国時代の法家の思想家、韓非子の話をもとに作られている。

ある日、農民が畑を耕していると、兎が走って来て、木の切り株にぶつかり死んでしまった。「しめた これから寝て待とか」と、農民は来る日も来る日も、切り株の番をしていたが、とうとう人の笑い者になってしまった。

性悪説に立つ韓非子は儒家を批判し、堯(ぎょう)・舜(しゅん)の時代とは違って、戦国の世は徳治ではうまくいかない、儒家は切り株を守る農民のようなものだ、とこき下ろしたのである。

「狡兎(こうと)死して走狗(そうく)煮らる」。
漢の劉邦(高祖)に仕えた韓信は、この言葉を引いて身の不運を嘆いた。
ずるい兎も、取りつくされてしまえば、獵犬は無用のものとなり、食べられてしまう。漢の天下統一に大きな功績があった韓信だが、統一後は逆に恐れられ、捕らえられる。世の中は得てしてそうしたものだ。

さて、兎の今年。どんな教訓があてはまる年になりますか。

びよんびよんと跳ねる元気な経済になればよいが、足も速いから、なにもしないうちに歳月が過ぎてしまうかもしれない。ご用心、ご用心。

第83回研究会報告

昨年12月5日(土)15:00より、横須賀共済病院5階講堂にて研究会を開催致しました。50周年記念行事後の研究会開催ということで、我々学術部の面々も少々フヌケになっており、演題の決定などで庶務の方々や演者の先生方、横須賀共済病院の方々には大変ご迷惑をお掛けいたしました。この場を借りてお詫びを申し上げます。特に演者の先生方には演題の依頼がかなり差し迫ってしまい、無理難題を押し付けた形になり、大変申し訳有りませんでした。(いつもお詫びをしている自分に気付く。)

今回は、デジタル画像系の演題を多く揃える事が出来、また最近新しく装置を更新したいくつかの施設からの報告もあり、当地区の会員諸氏の興味をそそる研究会が出来たと思います。参加者も総勢65名を数え、大盛況であり、我々学術部の3名も、とても満足しております。

プログラムは以下の通りです。

1. 「オムニパークの改善について」

第一製薬(株) 高田哲子先生

2. 「Agfa社製シネフィルム現像機SCOPIX-12Sの使用経験」

横浜南共済病院 中島義人先生

3. 「らせんCTを担当して」

横須賀北部共済病院 生方昌宏先生

4. 「デジタル・マンモグラフィーとLORAD-M4」

日立メディコ(株) 中島先生

5. 「FCRの使用経験」

横須賀市立市民病院 今泉 信先生

6. 「多目的装置とDR」

横須賀共済病院 服部祐治先生

プログラムの中で会員発表は、全て装置の使用経験についての発表であり、ユーザーサイドからの辛口の意見も折り交ぜて聞けました。とても興味深い研究会になったと思います。

さて、その後の懇親会は今年は割愛しましたが、北京ダックの待つ3部合同大忘年会へとなだれ込み、大いに盛り上がりました。

横須賀三浦・横浜南部合同勉強会

学術・濱田順爾

そして、年も明けて、アンゴルモアの大王が降り立つかも知れない1999年の1月23日（土）、恒例の上記合同勉強会が横浜南共済病院管理棟4階会議室に於いて開催されました。今年は横浜南部地区学術部の担当でしたので、実は我々殆ど働いてはいないのですが、横須賀・三浦の理事会開催日程とのからみで右往左往してしまい、一時は演者が当地区から一人も出ないかも知れない、という、大ピンチに陥りました（「言わなくてもいいのに」という声も．．．）が、まずは横須賀共済病院のエース、近藤明彦先生が快く引き受けてくれて一題確保。なんとか我々の面目を保つことが出来ました。冷や汗。

そんな出だしではありましたが、なんとか当日を迎え、参加者は69名、そのうち横須賀・三浦地区からは29名の会員参加がありました。

中止演題が一題ありましたが、ゆったりとしたプログラムになったせいか、総じて活発な質疑応答が行われました。

プログラムは以下の通りです。

1. 「心臓血管造影検査における術者の被爆測定 —電子線量計を使用して—
横浜南共済病院 平林公二先生
2. 「当院の現像システムに生じたトラブル」
済生会横浜市南部病院 梶島一成先生
3. 「呼吸停止下MRCPの最適化の検討」
横須賀共済病院 近藤明彦先生
4. 「MRI用経口消化管造影剤フェリセルツを用いた
Dual-Contrast MRCPの検討」
横浜栄共済病院 高橋光幸先生

横浜南共済病院の平林先生、横須賀共済病院の近藤先生、本当にお疲れ様。その後、懇親会があり、横浜南部地区の高田会長、横須賀三浦の千葉副会長、路前県技師会長のご挨拶が続き、とても盛り上がり、追浜の夜は長く長く続いたのでした。

インフルエンザ報道について

広報・高崎

先日、横浜市内の十慈堂病院で大量のインフルエンザによる死亡者が出た、と報道があったことは皆様の記憶に新しいと思います。実はこの件について私のインターネットにメールが送られて来ましたが、送ってくれたのは友人の済生会若草病院勤務の池田さんからでした。

病院になんら落ち度はなかった、として事件は収束したのですが、騒ぎ立てるだけ騒ぎ、事実報道がほとんどなかった。このことについて十慈堂病院の常勤医師、渡部一博医師より池田氏のところにメールが送られてきました、二人とテニス仲間でもあり、同じ医療関係者でもあるのでそのメールが私にも届けられました。報道のあり方を考えさせられるものでした。報道は騒ぎたてるものではなく、最後まで事実を責任もって報道する、埼玉県野菜問題もしかり。今回このメールを渡部医師個人の見解も含め、十慈堂病院の名誉のためにも、同じ医療関係者として事実を知っていただくためにもこの紙面を借りて掲載させていただきます。

(渡部一博医師からのメール)

此の度は私のささやかな「見解」にご理解を戴き有り難うございます。先程、若草病院の池田さんから文書の変更は可能と連絡を戴きましたので少しだけ手直しをしたものをお送り致します。

ご面倒をおかけ致しますが宜しくお願い申し上げます。

なお、掲載に支障があると思われる部分はお問い合わせ頂ければ私の判断で削除も厭いませんのでメールなどにてご連絡を頂ければ折り返しお返事申し上げます。

今回の「インフルエンザ報道」に際しましては皆様方の熱いエールに心からお礼申し上げます。殆ど犯罪者（それも殺人事件）であるかのような「マスコミの暴力的報道」に対して立ち向かう時、皆様からのご支持や励ましがどれほど心強かったか、嬉し涙で文面がゆらいでしまうこともしばしばでした。

お蔭様で2月18日（木）、横浜市衛生局の立ち入り調査の結果発表で「病院の対応は適切で、施設の基準等にも問題は無かった」との判断が示

され、表向きには今回の「騒ぎ」は終息致しました。

しかしながら、私達にとってはむしろこれからが本当に大変な時期を迎えます。十慈堂病院という組織にはそれを支えてくれている多くの信頼出来るスタッフがいます。その人を支えてくれている更に多くの家族がいます。また私達を常に信頼して戴いた本当に多くの外来・入院患者さんとそのご家族の方がいらっしゃいました。今回の「報道」により、その方々がどれほど「誇り」を傷つけられたことでしょうか。また私達を気遣うあまり心労のため「健康」を害された人も出てしまいました。この「十慈堂病院」の信頼と関係する人々の「名誉」を回復するには、これまで以上の地道な努力が求められることでしょうか。しかしながら「報道」がそれに手を貸すことは決してないでしようし、自らを反省して謝罪することも決してないでしよう。

（最近では松本サリン事件の河野さんに対する報道以来、何度もマスコミは事実誤認の報道をしてはく再発防止に全力を>と空しいコメントを出してはまた今日も「事実」を垂れ流し続けています。「真実」を確認しないまま、あるいは私達のコメントを都合の良いように編集し報道して、「イカガワシイ病院」であるかの如き印象を読者や視聴者に与えようとした責任はどこかに忘れ去ったまま、彼らはまた次の「事件報道」に今も血眼になって走り廻っています。

また、かつて自らがキャンペーンを張って「インフルエンザワクチン」を希望者接種としたことは忘れて（？）、今回またその有効性（あるいは無効性）を科学的にきちんと検証することなく、ただただ恐怖感を煽ってムードで行政指導型の接種に世論を向けようとしています。（私は行政が安易にそれに流されないことを願うばかりです）

私自身は感染対策委員長として、また主治医としての立場がある以上、事実を伝えるため例えどんなに厳しくてもTVカメラの前にも立つ義務があると自覚していますが、残念ながら何故かく病院に問題なし>の今『彼等』は殆ど現れません。私達に反論の機会を与えないまま幕引きをしようとしています。

私は今回の「事実関係と報道の問題」に関してHPを立ち上げて、出来るだけ早い機会に私達の見解を世界に向かって発信し、ほんの少しでも私達を支えて頂いた「小さき者」達の「誇り」を回復させてあげたいと考えていますが、とりあえず応援して頂いた皆様や関係者の方々に「第一報」をお届けして私の感謝の気持ちに代えたいと存じます。

===== プロローグ =====

昨年来、入院患者さんの家族ではない関係者を自称する者が病院の取り決めを順守しないため、医師や看護婦から重ねて注意を受けることがあった。

=====

平成11年1月28日「神奈川県民生部」に<20名の患者が死んでいる。管理や施設に問題があり、さらにその医師にも問題がある>という内容の匿名の投書があった。しかし、県の衛生部に連絡したのは2月8日、更に横浜市に連絡したのは2月9日だった。（新聞報道による）

+++++++以下の部分は私の推測と伝聞であることを明記します+++++++

県も横浜市も十慈堂病院が匿名投書にあるような問題のある病院とは認識していなかったため問題にはしていなかった。（この事が後に県から横浜市への連絡が遅いと責任を追及される事になった）匿名の投書者はいつまでもたっても期待した騒ぎにならないことにシビレを切らし、某報道機関に匿名で<あたかも行政が問題を隠蔽しようとしているかの様に>投書をした。このため報道機関は一斉に「悪質病院潰し」の先頭をきるべく県や横浜市の担当部局に問い合わせ追及、更に立ち入り検査に同行し、入院患者、その家族あるいは周辺の住民から十慈堂病院の「悪質」の裏づけをとろうとしたが、結果は「予断」とは反対の結果となってしまった。

(私見部分以上)+++++++

（その後の経過）

2月10日（水）横浜市は保健所と共に第1回目の立ち入り検査を実施。更に2月17日（水）再調査を実施した。我々はこれらの調査にできる限り協力した上で、2月17日（水）夕刻には多くのTVカメラと記者に向かって2時間近くも院長、事務長と私の3人で積極的にインタビューに応じたにもかかわらず、翌日は「予断と偏見と知識の不足(*1)に基づく」としか思われなような報道が全国に溢れていた。こうして2月18日（木）の夕刻に「十慈堂病院は適正な予防対策と処置を講じており、また施設基準や勤務体制にも問題はなかった」という発表がされるまで、ヘリコプターを飛ばしての全国版での<魔女狩り>的な「インフルエンザ禍」報道が続いた。しかし、2月18日（木）には共同記者会見を要求しておきながら、前述の「適正報道」が出てしまった後は会見に参加した記者は激減、当然20日（金）の報道は尻すぼみ状態で全国版での報道は無いに等しいと思われた。（因みに（金）にはまる一日正式な取材は1件もなか

った)また今日に至るまで今回の報道に関する「問題」で報道各社からの謝罪もない。なお、今回の報道では(水)の取材を終えた段階で<匿名投書とあまりにも異なる状況>に疑問を感じて報道を控えたり、正確に私達の発言を掲載して頂けた一部報道機関もありましたが、残念ながら津波のような「意図的な報道」の前には<さざ波>の様でしかありませんでした。

**** 今回の報道に関する問題点(私見) ****

(1) 悪意の匿名投書に対してきちんとした裏付けをとらないうちに「ある予見」を持ったまま「事件」として報道した。

(2) インタビューに対して回答した内容を故意にあるいは誤って(?)編集して報道し、「事件」が一定の印象で社会に伝わるように誘導した。

(3) 「問題なし」の行政の結論が出た後もその結果をきちんと報道せず、当事者および関係者さらに読者(視聴者)に対して、精神的・肉体的・経済的負担を残しあるいは混乱を残したまま、一方的に幕引きをしようとしている。謝罪は勿論その責任の所在を明らかにしないまま……。

(4) 「インフルエンザ」という疾患が予防対策や治療を実施すれば完治し、それが出来なかった医者個人あるいは施設は、さも「悪質な医療」あるいは「医療過誤」であるかの如くの<魔女狩り報道>を続けている。

(注) 大変に残念なことに医者の一部にその片棒を担ぐ者がいたのも事実です……。

(5) 今回の「事件」が、病院に落ち度がなかったと結論されてからは、「ワクチン不足を放置した行政の問題」へと矛先を変えることにより、(自らの責任の所在には触れる事なく)『科学的な検証』をしないまま「インフルエンザワクチン接種」キャンペーンを展開しようとしている。

(注) 現在インフルエンザワクチンの流通は経済原則に従っているので、行政がその責任を直接的に負う立場にはないと私は考えています。

(*1) 取材に現れた「記者」と称する若者達の資質は(数人を除いて)残念ながらかなり低く、社会的一般常識は勿論、<老人医療を巡る様々の矛盾とは>などは仕方無いにしても<インフルエンザがどういう疾患なのか><日本人の平均寿命は何歳なのか>などの基礎的な知識もまったく持ち合わせずに「どうしてインフルエンザの治療が出来なかったのか」などと質問して来るのですから「顔を洗って出直しておいで」と言いたくなる者ばかりでした。

さらに、「高齢で気管切開を受け意識もなく鼻腔栄養で命を長らえている患者さん達が尊厳のある静かな死を迎えるには？」などという哲学的な?命題にはとても考える能力を持っているとは思えない、加えて繰り返しゆっくりと発言した内容をメモしている筈なのに、それを復唱させるとま

るで違う内容を答えるといった有り様で、彼等との2時間近くの共同記者会見は「暗澹たる気分させられるた」しか言いようがありませんでした。お蔭様で現在、病院は何事も無かったかのように外来も入院も落ち着いています。この間に入院患者さんで退院された方は「食べられるようになって」軽快退院された方が一人と、糖尿病のコントロールが困難なため基幹病院に転院された方が一人だけで、外来もいつもと変わりありません。むしろ病院を心配されて来て頂く患者さんの分多いかもしれません。

またこの数日の間に、日本全国の友人・昔の職員や患者さんあるいはそのご家族、また関連する医療機関の先生方や見ず知らずの方々にまで実に多くの方々から心強いご支持とご支援を賜りました。

私達はそれら多くの方々の信頼に応えるべく、今回のこの出来事を「自分達への戒め」として真摯に受け止め、改めて身を引き締めて職員一丸となって病院の更なる改善に取り組み『災いを福となす』ことにしようと話し合っています。なお、私は今回の「事実関係と報道の問題」に関してHPを立ち上げる事により、出来るだけ早い機会に私達の見解を世界（少し大袈裟？）に向かって発信しようと現在準備に取りかかっています。ある記者は「HPを読む人なんてたかが知れていますし…」と意に介しない態度をとりました。しかし私が「誤った情報を何百万の人に見てもらいより、正確な情報と私達の真意を例えその何十分の一の方にも知ってもらえることのほうが大事。」と反論したところ彼はビビっていました。個人や小さな組織が巨大なマスメディアに反撃することのできるこのインターネットこそが、これからは「いい加減な報道」を少しでも抑制することに繋がることになるのだと私は大いなる希望を持ち始めたところです。

=====

以上の「私の真意」をご理解戴ける場合には、各人で差し障りが無い方々にだけこのメールを<チェーンメール>として発信して頂ければ幸いです。なお、本文は十慈堂病院としての公式なコメントではありません。

=====

(文責)

〒244-0814

1 神奈川県横浜市戸塚区南舞岡1-23-9

十慈堂病院

渡部 一博

Kaduhiro Watanabe : penguin.watanabe@nifty.ne.jp

一般会計決算

(作成・会計 坂詰丈太・斉藤美奈子)

(収入の部)

| 項 目 | 平成10年度予算 | 平成10年度決算 | 備 考 |
|---------------|-----------|-----------|------------|
| 前年度繰越金 | 292,494 | 292,494 | |
| 会 費 | 252,000 | 238,000 | 正会員 126名 |
| 賛助会費 | 442,000 | 422,000 | 賛助会員 23社 |
| 寄 付 | 0 | 81,985 | |
| 利 息 | 250 | 293 | |
| 救急センター事業収入(1) | 30,000 | 30,000 | 救急センター会計より |
| 雑 収 入 | 0 | 400 | |
| 合 計 | 1,016,744 | 1,065,172 | |

(支出の部)

| 項 目 | 平成10年度予算 | 平成10年度決算 | 備 考 |
|---------------|-----------|-----------|------------|
| 会 議 費 | 135,000 | 111,557 | 三役会、理事会、総会 |
| 学 術 費 | 110,000 | 109,469 | |
| 広 報 費 | 110,000 | 110,000 | |
| 福 利 厚 生 費 | 110,000 | 110,000 | |
| 庶 務 費 | 200,000 | 170,750 | 会誌等の配布 |
| 渉 外 費 | 50,000 | 45,205 | 県ポーリング補助 |
| 予 備 費 | 51,744 | 0 | |
| Y M B I T 助成金 | 30,000 | 30,000 | |
| 名簿作成費 | 50,000 | 50,000 | 名簿作成 |
| 雑 費 | 0 | 0 | |
| 慶 弔 金 | 20,000 | 5,750 | |
| 繰越金額 | 0 | 172,441 | |
| 50周年記念事業対策費 | 150,000 | 150,000 | 50周年記念事業補助 |
| | | | |
| | | | |
| 合 計 | 1,016,744 | 1,065,172 | |

監査の結果相違ないことを認めます。

平成11年3月5日

会計監査 鈴木宏一 ㊞

橋本文夫 ㊞

一般会計予算案

(作成・会計 坂詰丈太・斉藤美奈子)

(収入の部)

| 項 目 | 平成11年度予算案 | 平成11年度確定予算 | 備 考 |
|---------------|-----------|------------|------------|
| 前年度繰越金 | 172,441 | , | |
| 会 費 | 256,000 | , | 正会員 128名 |
| 賛助会費 | 512,000 | , | 賛助会員 22社 |
| 寄 付 | 0 | | |
| 利 息 | 250 | | |
| 救急センター事業収入(1) | 30,000 | , | 救急センター会計より |
| 雑 収 入 | 0 | | |
| 合 計 | 970,691 | , | |

(支出の部)

| 項 目 | 平成11年度予算案 | 平成10年度確定予算 | 備 考 |
|---------------|-----------|------------|------------|
| 会 議 費 | 135,000 | , | 三役会、理事会、総会 |
| 学 術 費 | 120,000 | , | |
| 広 報 費 | 120,000 | , | |
| 福 利 厚 生 費 | 120,000 | , | |
| 庶 務 費 | 200,000 | , | 会誌等の配布 |
| 渉 外 費 | 50,000 | , | 県ポーリング補助 |
| Y M B I T 助成金 | 35,000 | , | |
| 名 簿 作 成 費 | 100,000 | , | 名簿作成 |
| 補 修 費 | 50,000 | , | コピー機等 |
| 慶 弔 金 | 20,000 | , | |
| 雑 費 | 0 | | |
| | | | |
| | | | |
| 予 備 費 | 20,691 | , | |
| | | | |
| 合 計 | 970,691 | , | |

積立金決算

(作成・会計 坂詰丈太・斉藤美奈子)

(収入の部)

| 項 目 | 平成10年度予算案 | 平成10年度決算 | 備 考 |
|---------------|-----------|-----------|-------------|
| 前年度繰越金 | 2,330,040 | 2,330,040 | 特別会費、協賛金を含む |
| 県技師会助成金 | 16,200 | 18,600 | |
| 積立金利息 | 3,900 | 1,957 | |
| 救急センター事業収入(2) | 250,000 | 250,000 | |
| | | | |
| | | | |
| 合 計 | 2,600,140 | 2,600,597 | |

(支出の部)

| 項 目 | 平成10年度予算 | 平成10年度決算 | 備 考 |
|-------------|-----------|-----------|-----------|
| 積 立 金 | 312,140 | 312,597 | 次回事業資金 |
| | | | |
| | | | |
| 50周年記念事業へ繰入 | 2,050,000 | 2,050,000 | 平成9年度繰越分 |
| 50周年記念事業へ繰入 | 188,000 | 188,000 | 特別会費(集金分) |
| 50周年記念事業へ繰入 | 50,000 | 50,000 | 協賛金(集金分) |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| 合 計 | 2,600,140 | 2,600,597 | |

監査の結果相違ないことを認めます。

平成11年3月5日

会計監査 鈴木宏一 ㊟

橋本文夫 ㊟

積立金予算案

(作成・会計 坂詰丈太・斉藤美奈子)

(収入の部)

| 項 目 | 平成11年度予算案 | 平成11年度確定予算 | 備 考 |
|-------------|-----------|------------|-----|
| 前年度繰越金 | 312,597 | 312,597 | |
| 会 費 | 16,200 | , | |
| 賛助会費 | 1,000 | , | |
| 救急わが事業収入(2) | 250,000 | , | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| 合 計 | 579,797 | , | |

(支出の部)

| 項 目 | 平成11年度予算案 | 平成11年度確定予算 | 備 考 |
|-------|-----------|------------|--------|
| 事業準備金 | 579,797 | , | 次回事業資金 |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| 合 計 | 579,797 | , | |

救急センター会計決算

(作成・監 大藤和夫)

(収入の部)

| 項 目 | 平成10年度予算 | 平成10年度決算 | 備 考 |
|-----------|-----------|-----------|-----|
| 前年度繰越金 | 43,643 | 43,643 | |
| 人 件 費 | 8,258,580 | 8,385,350 | |
| 調 整 事 務 費 | 53,900 | 54,390 | |
| 装 置 管 理 費 | 78,120 | 78,840 | |
| 線 量 測 定 費 | 79,120 | 79,840 | |
| 雑 収 入 | 0 | 0 | |
| 利 息 | 1,500 | 1,149 | |
| 合 計 | 8,514,863 | 8,643,212 | |

(支出の部)

| 項 目 | 平成10年度予算 | 平成10年度決算 | 備 考 |
|-----------|-----------|-----------|-----|
| 人 件 費 | 8,171,200 | 8,242,600 | |
| 調 整 業 務 費 | 250,000 | 250,000 | |
| 調 整 事 務 費 | 10,000 | 8,957 | |
| 装 置 管 理 費 | 30,000 | 30,000 | |
| 線 量 測 定 費 | 35,000 | 40,000 | |
| 渉 外 費 | 10,000 | 10,000 | |
| 予 備 費 | 8,663 | 735 | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| 繰 越 金 額 | 0 | 60,920 | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| 合 計 | 8,514,863 | 8,643,212 | |

監査の結果相違ないことを認めます。

平成11年3月5日

会計監査 鈴木宏一 印

橋本文夫 印

救急センター会計予算案

(作成・会計 大藤和夫)

(収入の部)

| 項 目 | 平成11年度予算案 | 平成11年度確定予算 | 備 考 |
|-----------|-----------|------------|-----|
| 前年度繰越金 | 60,920 | , | |
| 人 件 費 | 8,327,950 | , | |
| 調 整 事 務 費 | 54,390 | , | |
| 装 置 管 理 費 | 78,840 | , | |
| 線 量 測 定 費 | 79,840 | , | |
| 雑 収 入 | 0 | | |
| 利 息 | 1,500 | , | |
| 合 計 | 8,603,440 | , | |

(支出の部)

| 項 目 | 平成11年度予算案 | 平成11年度確定予算 | 備 考 |
|-----------|-----------|------------|-----|
| 人 件 費 | 8,244,360 | , | |
| 調 整 業 務 費 | 250,000 | , | |
| 調 整 事 務 費 | 26,000 | , | |
| 装 置 管 理 費 | 30,000 | , | |
| 線 量 測 定 費 | 40,000 | , | |
| 渉 外 費 | 10,000 | , | |
| 予 備 費 | 3,080 | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| 繰 越 金 額 | 0 | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| 合 計 | 8,603,440 | , | |

編集後記

今年も雛人形を出して透視撮影室に飾りました、毎年なにげなく行ってあまり印象ありませんでした。「そのような年ではないよ」と言われてしまえばそれまでですが……。雛人形を飾っている2～3週間はいつも総会前の広報誌発行のためあわだだしく過ごしているためでしょうか？。今年度の総会は会場の都合で4月3日（土）に成ったので少しゆとりが持てたのかもしれませんが。この雛人形は5年ほど前、定年される職員が記念にと和紙で作って頂いたもので、すばらしい雌雛、雄雛である。以前はそれに併せてピージーエムを流していたのを思いだし古いカセットレコーダーを持ち出し流している、ちょっと古にもどった様な気がします。あわただしい今日、少し足踏みしてみるのも良いように思う。

広報担当 横浜南共済病院 高崎
横須賀共済病院 大竹
横須賀市民病院 柳沢

4月3日（土）は総会です
横須賀市文化会館にて15時からです
奮ってご参加下さい
なお、今号は総会資料となりますのでお持ち下さい

横須賀三浦
放射線技師会報
Vol. 22 No. 3 通算72号
1999年 3月23日（火）新
編集／発行・ 広 報 部
印刷／製本・ コダック株式会社
西本産業株式会社